

新入社員が考えた「空白の2年間」で行なうべきこと

～4年後の自身を空白にしないための弊社新入社員による問題提起～

発表形式 口頭発表

演題区分 薬学教育

発表者 岡本達明（おかもと たつあき）

共同研究者 飯田裕子、藪下 和樹、鎌田 章子、岡本 真裕子、中井 恵子、
川田 真紀、佐倉 真由美、沼田 奈美、都井 昌子、井口 曜子、
牧 美智子、塩田直美、波多智子、吉武さやか、加藤すみれ、

ジオ薬局グループ、テイオーファーマシー株式会社

〒760-0005 高松市宮脇町 1-1-23 TEL:087-861-0800

【目的】 周知の通り薬学教育6年制への移行に伴い、間もなく、新卒薬剤師が激減する、いわゆる「空白の2年間」が訪れる。背景には、社会や医療現場により貢献できる薬剤師育成への希求、即ち「質」に対する危機感があるという。また、移行に伴う問題点として、「人材」確保の困難性が予測、クローズアップされている。さて、2008年の新卒者は「空白の2年間」に突入する2010年には3年目、そして「空白の2年間」が明ける2012年には、5年目薬剤師として”6年制薬剤師新卒者”を迎え入れることになる。しかしながら、社内においては2009年の新卒者配属を最後に2年間は配属がなされないことを勘案すると、立場としては、「2年目薬剤師」として2年間は過ごすことになる。もし、このような現状を意識せず、2年間は漫然と過ごせば、即ち「2年目薬剤師」のまま「5年目薬剤師」となる危険性を孕んでいる。ひいては、全体の「質」の低下が危惧される。そこで、本学会においては4年後の自身を空白にしないための「空白の2年間」の過ごし方について「2008年の新卒者」という立場から「人材」、「質の向上」の観点から検討し、報告する。

【方法】 「空白の2年間」に於ける「想定されるイベント」また「機会の喪失」についてピックアップ作業を行った。更に、2～5年目の先輩薬剤師を対象に観察、インタビューを行い、業務把握を行なった。を材料に「空白の2年間」の過ごし方について「2008年の新卒者が集まる機会」を利用し、全員で考察し検討を行なった。

【結果】 現在我々新卒者は「新入社員研修」受講の最中であるが、研修を客観的に観察することによって、人は受講による成長の他、人を教えることにより成長することを感じた。即ち「空白の2年間」における「機会の喪失」として最も大きいのは、「後輩に教える機会の喪失」であった。また「想定されるイベント」としては「長期薬学実習受け入れ」が予測されるが、指導薬剤師としての認定には間に合わないことも同時に想定された。これらは即ち「自身の成長の機会の喪失」と同義であった。また、自身の成長の停滞は同時に”6年制薬剤師新卒者”への育成力低下をも意味していた。係る諸問題についての解決案は本要旨作成時には明確には提出できていな

い。本発表までに議論を重ね、一定の見解を示せればと考えている。